

## 第1回 新東北港湾ビジョン検討委員会 議事概要

日時：令和2年6月17日（水）15:00～17:00

場所：仙台合同庁舎B棟 12階大会議室

### 【議事概要】

- ・「新東北港湾ビジョン検討委員会」規約（案）が諮られ、委員の了承を得た。
- ・規約に基づき、委員長を選出が行われ、東北工業大学の稲村肇名誉教授が委員長に選出された。
- ・稲村委員長から宮城大学の徳永幸之教授が副委員長に指名された。
- ・事務局より資料の説明が行われた後、意見交換を行った。

### 【委員からの主な意見】

（東北港湾ビジョンの方針）

- ・ 港の競争力を維持するため、IoTを活用したコストダウンの観点、さらに洋上風力発電について、今回のビジョンの最大の目標にすべき。
- ・ 目標2の安全・安心は当然重要だが、新しい傾向を考えると目標3の観光・環境と順番を入れ替えるべき。
- ・ PORT2030では後半で記載のある港湾のスマート化・強靱化や維持管理を新ビジョンでは前に出して、東北ならではの違いを見せていきたい。
- ・ 港湾インフラ整備を通じて地域の産業をうまく主導できる将来を見越したメッセージを盛り込んでほしい。
- ・ 骨子では重点する事項を分かり易く表現し、現行ビジョン策定時からの進捗度合いを考慮してほしい。
- ・ 内陸を含めどこと連携するのか、高速道路との接続などとも連携を強化して港湾としての競争力も上げることを書き込む。
- ・ 輸送面での企業のコンテナ積載技術をサポートできる体制等、他地域の港との差別化につながる差し込み方を考えていく必要がある。
- ・ 東北各県の港の活用方法は各港の機能を見ながら東北独自の方向を考える。その際、貨物を増やす際には港湾の総合的な運営を考える必要がある。
- ・ 現行ビジョン策定時との大きな変化である三陸沿岸道路全通のインパクトの捉え方が重要。港同士の競争も踏まえ、各港の役割分担を明確にする必要がある。

（再生可能エネルギーについて）

- ・ 近年 ESG 投資や社会性を考え、企業の投資を呼び込む活動が世界的に活発に

なっている。再生可能エネルギーを使える場所が新しく企業立地する一つの要素になる。

- ・ 風力発電は洋上に限定せず内陸も視野にいれ、その中で港がどういう役割を果たしていくかが重要。

(クルーズ船観光等について)

- ・ クルーズ列車はクルーズ船と鉄道が連携した非常に特徴的な取組みであり、港湾間の連携も必要。
- ・ クルーズ船のホテル活用等、観光面での連携をもっと具体的にイメージすると東北らしい強みが出てくる。
- ・ 新幹線からのアクセスが不便なところほど、クルーズ船寄港地としては魅力がある。クルーズ船の大型化に対応できる港湾整備が進むとよい。
- ・ クルーズ船寄港による観光振興を検討する際には、検疫等の体制構築など、危機管理をしっかりと示す。
- ・ 親水空間の確保等、市民が訪れたい港づくりを示す。

(その他(防災対策、農産物輸出促進等))

- ・ 長期的な取組みとはなるが、島国である日本は港が無いと生活できないという教育を盛り込む必要がある。
- ・ 港湾BCPについては、複合災害等、災害の多様化に対するレジリエンスをどう考えるか検討する必要がある。
- ・ 農産物輸出は、品質面で安全安心の付加価値をつけた輸出の仕方や、農産物輸出コンビナートのような観点を盛り込んでいければよい。
- ・ 農産物については地域の取組みも個別に進んでいる。伸ばすべき対象のターゲットを絞って進める方向性を出す。

以上